

こぎんは語る「次の世代へと」

こぎん刺しは江戸時代、木綿の着用を許されなかった農民が、自家栽培の麻の着物に布の補強と保温のために刺し子を施したのが始まり。やがて綿密な幾何学模様へと発展し、多くの先人たちによって今日に伝えられてきたが、その中でも高橋一智・寛子両夫妻が二人三脚で長年にわたる研究により繋いできたこぎんは特筆すべきものがある。

高橋寛子氏に師事した佐藤陽子さんは遺品を図案に起こし自身のホームページで公開しているが、その図案をはじめ未公開の寛子氏の作品を展示する。その斬新な図案は見る者を魅了して止まない。



高橋寛子(たかはしひろこ)

大正14年、弘前市茂森町生まれ。
15歳の時に木村産業研究所(現在の弘前こぎん研究所)に入り、こぎんを制作。
戦後は講師を務め、昭和45年に陶芸家の高橋一智氏と結婚。平成27年逝去。

佐藤陽子(さとうようこ)

旧岩木町(現・弘前市)生まれ。
故前田セツさん、高橋寛子さんらに師事し、こぎんを習う。
2010年3月弘前市職員を退職し同年7月「佐藤陽子こぎん展示館」オープン。

藤田記念庭園

弘前市上白銀町8-1 ☎0172-37-5525

Access

- 交通/東北自動車道大鰐・弘前インターより車で30分
弘前駅よりタクシーで15分。バスで20分「市役所前公園入口」下車、徒歩3分。
- 駐車場/藤田記念庭園駐車場(無料)、弘前市役所(1時間無料)